

ひきよせ

03 hikiyose
2024-2025

TAKE
FREE

日置の魅力を
私たち中学生がお届けします
あなたも見えない糸で
引き寄せられるかも!?

地域資源 × 人 × 中学生
でつくる新しい日置
日置はまだまだおもしろい!!



ひきよせ2号を読んでくださった方々から いただいた感想の一部を紹介します!

日置の魅力が一度にわかる内容でした。地域の学生が自分の住んでいる地域の歴史や文化を学び、それを発信するという地域の魅力再発見に熱心に取り組んでおられるということが伝わりました。



何気なく手に取り、家に帰ってじっくりと拝読しました。町の魅力や歴史がよくまとまっていると感じました。全国から訪れる人にも日置のいいところを知ってもらえると思います。



日置の事を上手に紹介していて、他のフリーペーパーよりもずっと面白かったです。中学生が作ったとは思えない内容でした。充実していて、読んでいて楽しかったです。これを読んだ人達はきっと日置に引き寄せられて、日置に足を運んでくれると思います。



何十年か前の卒業生です。今は遠く離れて生活しています。自分達が子供の頃に何となく当たり前にあった行事や風景をこの様に紹介してくれて、思わず読み入ってしまいました。私達が子供の頃はもっと日置は活気があって賑やかでした。日置の良さなんて何も考えずに中学時代を過ごしていたなと思います。しかし、皆さんはこの日置の素晴らしさをどうすればもっと発信できるのかと考え、行動して形に残しています。本当に嬉しいし、故郷って素晴らしいと思いました。楽しみながら今後も頑張ってください。遠くからですが応援しています。



じっくりと拝見しました。率直に、とても感銘を受けました。表紙がおしゃれで「中学生がお届けします」の文字に驚きました。記事に関しても、日置の魅力が丁寧に分かりやすく記されていました。実際に足を運んだみなさんが取材の中で肌で感じたことや、手書きの地図やイラストから温かみが感じられる点など、印象に残っています。



皆さんの熱心な活動にはとても刺激を受けました。気づいていないだけで和歌山には多くの魅力が隠れています。その魅力を今後はいかにして発掘、保存、発信していくのが課題となります。将来を担う皆さんが地域に誇りを持って活動することが、地域の活性化に繋がると思います。頑張ってください。応援しています。



中学生がこれまでの内容を創り上げたこと、本当に感動&感謝しました。旅行で訪れ、たまたま手に取ったのですが日置の魅力をとてもよく伝えておられたと思います。作り上げた日置中の生徒さんも見守った先生方もインタビューに答えて日置の魅力を伝えた方々もみんな素晴らしいと思います。



「ひきよせ」を手にとっていただきありがとうございました。日置中学校では日置の魅力や名所を伝えるフリーマガジン制作に取り組んでいます。フリーマガジン設置にご協力いただけるお店や施設等がありましたら学校までご連絡いただけますと幸いです。今後も取組の継続ができるよう頑張っていきますので応援よろしくお願いします!



ひきよせ
03 hikiyose
2024-2025

発行 白浜町立日置中学校
住所 〒649-2511
和歌山県西牟婁郡白浜町日置979-2
電話 0739-52-2070
@hikityu2019 2025.10.2000_01

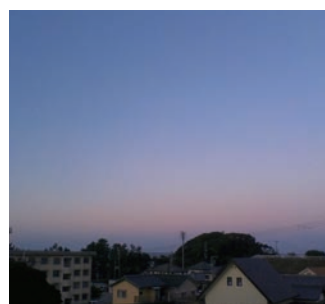


写真コンテスト

photo contest

季節に合った写真を撮って、写真コンテストを行いました。
秋、冬バージョンの結果を紹介したいと思います。

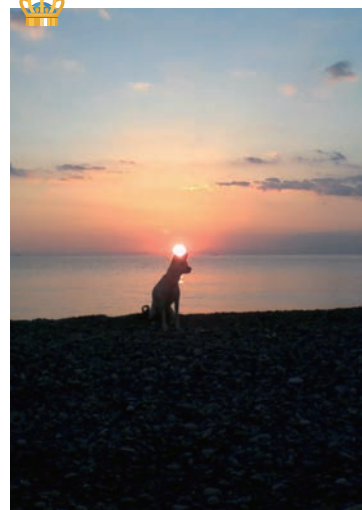
秋



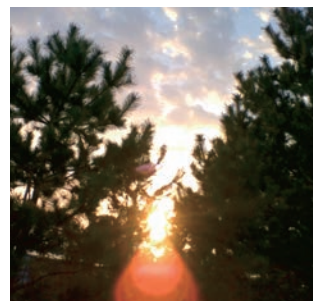
東雲



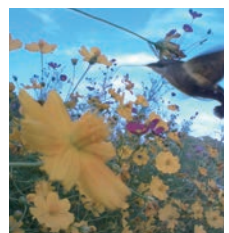
ネコのき〜もち



夕日



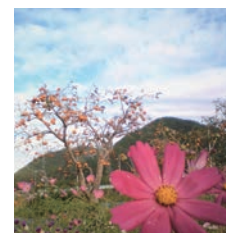
燃える夕日



秋のはち



ダイナミックなイチヨウの木

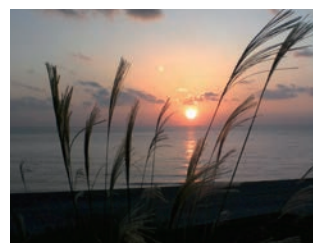


はい!柿さんこっち見てー、はい、チーズ

秋は夕日がたくさんランクインしました。日置で見られる夕日はやはり綺麗ですね。ぜひ天気の良い日に一度訪れてほしいなと思います。優勝は日置ならではの夕日と、かわいいワンちゃんでした!



秋麗

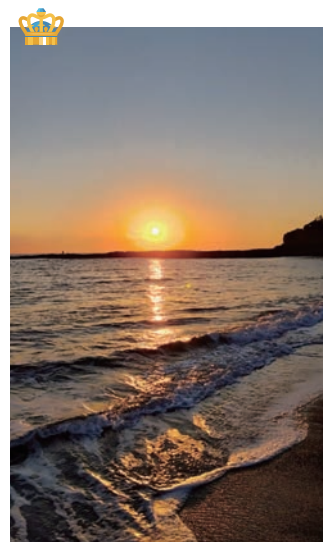


秋に誘われて

冬



みんなで集まればあったかいね



夕日が光る海



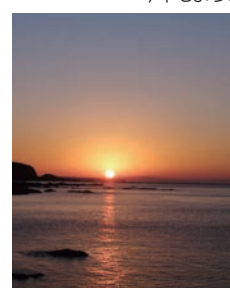
初詣



今年もよろしくお願ひします



釣りに行こう!



初日の出



山茶花とパンダ列車

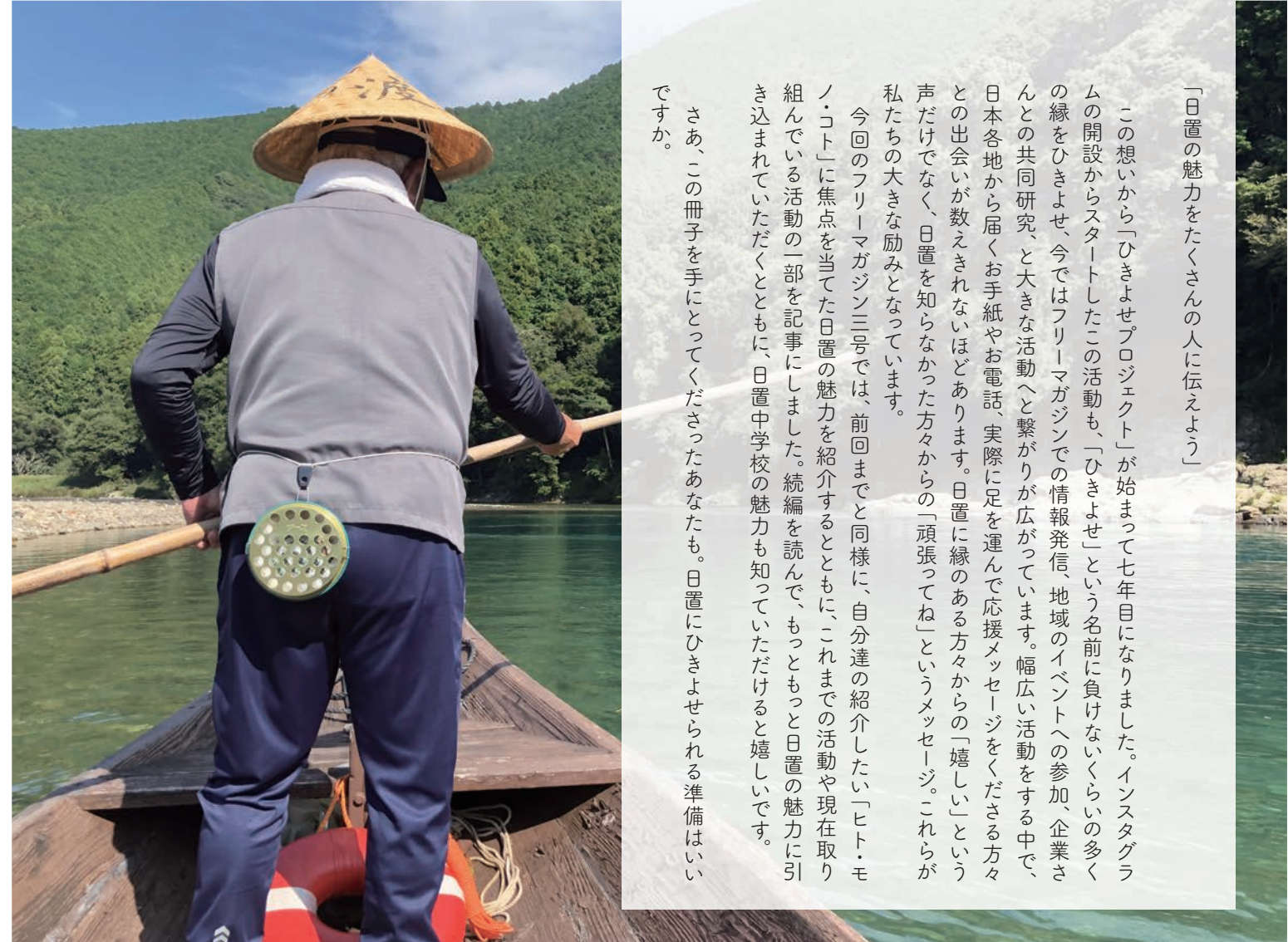


白い線路



大切にしまっていたい思い出

海と夕日のコラボは海辺ならではの景色!綺麗な夕日の写真や可愛い雪の写真がたくさんランクインしました。冬の夕日も、どの季節にも負けないくらい魅力的ですね。優勝は冬の寂しい雰囲気の海と夕日でした!



「日置の魅力がたくさんの人に伝えよう」
この想いから「ひきよせプロジェクト」が始まって七年目になりました。インスタグラムの開設からスタートしたこの活動も、「ひきよせ」という名前に負けないくらい多くの縁をひきよせ、今ではフリーマガジンでの情報発信、地域のイベントへの参加、企業さんとの共同研究、と大きな活動へと繋がりが広がっています。幅広い活動をする中で、日本各地から届くお手紙やお電話、実際に足を運んで応援メッセージをくださる方々との出会いが数えきれないほどあります。日置に縁のある方々からの「嬉しい」という声だけでなく、日置を知らなかった方々からの「頑張ってるね」というメッセージ。これらが私たちの大きな励みとなっています。
今回のフリーマガジン三号では、前回までと同様に、自分達の紹介したい「ヒト・モノ・コト」に焦点を当てた日置の魅力を紹介するとともに、これまでの活動や現在取り組んでいる活動の一部を記事にしました。続編を読んで、もっともっと日置の魅力に引き込まれていただくとともに、日置中学校の魅力も知っていただけると嬉しいです。
さあ、この冊子を手にとってください。あなたも。日置にひきよせられる準備はいいですか。

CONTENTS

- 03 写真コンテスト!後編
日置の秋、冬を感じてみてください
- 04 繋いでいく伝統の舞
安宅獅子舞 @安宅
- 06 石をこよなく愛し、生命を吹き込む石工職人
壺田石材店 @日置
- 08 野菜を作る、未来を創る つないでいきたい、この想い
農家大内さん @日置
- 10 あたたかみ感じる第二のふるさとに
廣本さん @日置
- 12 テニスで広がる地域との繋がり 日置が誇るテニスの聖地
白浜町テニスコート @日置
- 14 愛され続けて75年 三代続く老舗の味
たつのや @日置
- 16 日置中学校総合授業のあゆみ
先輩方から引き継いだ歴史をまとめました
- 18 日置の海、地球を守りたい!
海の森プロジェクトって何?
- 19 在校生の感想 etc...
- 20 読者の方からの感想、編集後記



(日置中学校区のみです)





獅子舞に使用する剣と小道具

今回、現在の青年会の宮山司（みややまつかさ）さん、尾崎慶治郎（おざきけいじろう）さんに、取材にご協力いただきました。

宮山さんは、小学五年生の時、こども獅子舞で獅子舞を始め、その後、高校二年生の時に青年会に入って獅子舞を踊りました。それは今も続いており、十九年間獅子舞を踊り続けてきたそうです。宮山さんが獅子舞を始めたきっかけは「獅子舞のかっこいいところに惹かれたから」だそうです。宮山さんのやりがいは、見に来ていただいた方に笑顔になってもらうこと、披露した後に「良かったよ。」と声をかけてもらうことだと教えてくれました。獅子舞をしている中で、大変なことは何かと尋ねてみると、「ない。楽しくやっているよ。」と笑顔で答えてくれましたが、若い人が減り、見に来てくれる人も獅子舞を継ぐ人も少なくなっていることが悲しいと感じているそうです。

若い人たちが少ない中、宮山さんと尾崎さんは獅子舞について子供たちに興味をもってもらうことや、来てくれた人に楽しさを与えることに力を入れたいそうです。こども獅子舞もその二つであり、いろいろな所で披露すること、人との繋がりをつくっていく大事なものとして大切にしていきたいという想いを話してくれました。

現在、練習は九月の半ばに毎日しているそうです。獅子舞の頭（かしら）の部分に自分の頭をはめた時、中の木の部分を噛まなければいけないのですが、歯に負担がかかり、折れそうになることがあるそうです。ですが、今の獅子舞は昔に比べて重さや形が変わり、軽くなっているそうで、昔は今よりもっと大変だったんだろうなと思いました。

また、宮山さんは「責任を持つこと」、「問題が起こった時はメンバーと解決していくこと」に気を付けているそうです。そのような中、獅子舞を地域で披露して回った後、青年会の人みんなで一緒に夕食を囲んで楽しい時間を過ごしている時、やりがいや達成感を感じ、楽しみの一つになっているそうです。宮山さんの話を聞いていると、時にはぶつかり合いながらも、楽しく獅子舞ができる仲間を大切にしていることがとても伝わり、そのようなリーダーがいるからこそ安宅青年会の披露する獅子舞は魅力にあふれているんだなと思いました。

続いて、今の日置について、そして今後どうしていきたいかについて尋ねてみました。「昔に比べて仕事場が減り、人口も少なくなってきた、発展させるのは厳しい。」という回答が返ってきました。だからこそ、地域をなんとかしたいという想いを持ち、こども獅子舞を老人ホームなどで披露しているそうです。

反対に、日置の良いところや魅力は、「自然が豊かで住みやすいところ。そして優しい住民たちがいること。」だと話してくれました。日置には課題も多く



練習風景

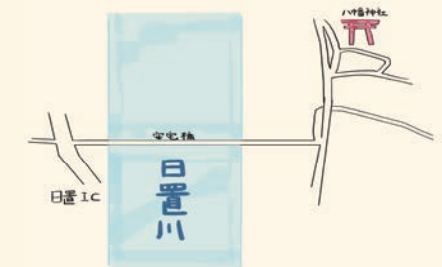


昭和 59 年安宅青年会 集合写真

あります。日置だけではありませんが、人口の減少は大きな課題となっています。しかし、日置の良さを後世に残すため頑張っている人がいる、ということをもっと自分たちにできることに取り組み、町を元気にしたいなと思いました。

最後に、お二人に獅子舞への想いを聞きました。宮山さんは、「獅子舞を継ぎ続けて、残してくれた人に恩返しのためで後世に繋いでいきたい。大切な伝統。」、尾崎さんは、「地域の人やいろいろな人との繋がりをつくる大きな手段。今後もこども獅子舞に力を入れていきたい。」と答えてくださったので、獅子舞に尽力していることが伝わってきました。

安宅地域では今も祭りの際に獅子舞が披露されています。そこでは、地域の人が集まり、楽しい時間を過ごしています。この地域に住む私たちも参加していますが、最近はコロナ前のような賑わいがなく、最近には寂しいです。人口も少なくなり、訪れる人が少なくなったからでしょうか。この大切な伝統文化を守る為に、獅子舞を披露する



日置川ICを左折し、日置川をわたってすぐにある安宅八幡神社。ここを中心に秋祭りが開催されています。みなさんもぜひ一度遊びに来てください。



左：尾崎慶治郎さん 右：宮山司さん



2015 年日置川農林業祭りでの安宅こども獅子舞の様子

人、見てくれる人が増えてほしいです。また、伝統文化について興味をもち、たくさんの人にこの素晴らしいことを伝えることができればいいと思います。

取材の最後にお二人が私たちに向けて話してくださいました「獅子舞のように仲間と協力して取組を続けていってほしい」という言葉をこれからも大切に、私たちも「ひきよせプロジェクト」を後輩に繋いでいきたいです。



@安宅

繋いでいく
伝統の舞

西暦五九二年、百濟(古代の朝鮮半島にあった国家)から日本に獅子舞が伝わってきました。「魔よけ」「延命息災」等の祈りと神楽として、山伏(やまぶし)、神子(みこ)などが踊っています。旧日置川町には百年前に伊勢から伝わってきました。

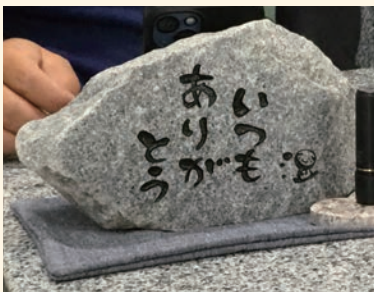
獅子舞は、秋祭りの中心となる行事で、①村人みんなが元気でいられること、②お米や野菜など作物がよく穫れること、③災害がやっけないように守ってくれることを祈願します。

安宅地区では現在も、十月の中旬に行われる安宅のお祭りで獅子舞が披露されています。お祭りの中心は安宅八幡神社。

獅子舞には、「弊の舞(へいのまい)」「剣の舞(つるぎのまい)」「乱獅子(だんし)」「の三種類があり、安宅獅子舞は乱獅子です。

乱獅子のあらすじを簡単に紹介します。獅子が狂ったように乱れ舞をして疲れているところ、見ていたお多福が現れます。獅子を寝かせた後、お多福が一人で踊っていると、遠くで天狗が見ているのに気づきます。お多福が天狗を呼んで二人で踊っているうちに仲良くなつていきます。そして獅子を起こしたり、ちょうかいを出したりしていると、獅子が怒り出し二人を追いかけます。お多福、天狗は逃げ回りますが、ついには食べられてしまいます。その後、獅子は乱れ舞をして終わりという話です。

石をこよなく愛し、 生命を吹き込む石工職人



白浜町役場日置川事務所から徒歩二分の場所にある壺田石材店。今から約百年前(昭和五年)に創業し、とても長い歴史があります。取材中には壺田さんの石に対する熱い想いが伝わってきました。

現在三代目の壺田健司(つばたけんじ)さん。今はお一人でお店を経営しており、たくさん業務を一人でできるように様々な機械を揃えられていました。

壺田さんが石に触れ合うきっかけになったのは生まれた環境にあり、小さい頃から石に囲まれ育ったそうです。石に対するこだわりが強くなり、今では石を使った多くの種類の作品や商品を作られています。取材でお店を訪れた際、店内や店外に完成度の高い作品がたくさんあり、迫力を感じました。

今回、取材を通して、印象に残ったお話がたくさんあったので、紹介したいと思います。

まず始めに、仕事でミスをした事はありますかという質問に壺田さんは「作品を作る中では失敗は付きものだけれど、失敗は悪いことではない。むしろ次の作品の土台となる。」と話してくださいました。やりがいを感じる瞬間は、墓石を購入された方からの感謝の言葉で、その言葉を聞くと、「また頑張ろう」と自分が元気にやっていたけるきっかけになる。」とおっしゃっていました。また、大変な瞬間は商品を作る時だそうです。壺田さんは、ある想いを込めて商品

を作られています。それは「①やると決めたことは必ずやり遂げる、②この仕事を与えてもらったからには、途中でやめられない。」という想いです。このお話からも、壺田さんは強い使命感を持つておられ、様々な場面でも努力を惜しまない方なのだろうと感じ、見習いたいと思いました。

壺田さんは店舗を経営する傍ら、個人でインスタグラムアカウントを開設しており、事業の様子や作品の紹介など、様々な情報を日々発信されています。インスタグラムを始めたきっかけは、インターネットを通じて、日置に住んでいる、知らないに関わらず、多くの人に投稿を見てもらいたい、知ってもらいたいという思いからだそうです。私たちは実際に投稿されている写真や動画を拝見させていただきました。壺田さんは多くの投稿をされており、その中にはなんと八千万回ほど再生されている動画がありました。ちなみに、その視聴者のほとんどが外国人だそうで、壺田さんの手掛ける石の魅力は日本国内にとどまっていないことを知りました。「これからも引き続き投



壺田健司さん



稿を続け、日置地区に関わらずたくさんの方に壺田石材店を知ってもらうために頑張る。」と意気込まれていました。

日置で叶えたい夢は何かと尋ねたところ、「六十歳には、インフルエンサーになれたらいい。」と笑顔で話してくださいました。私たちも応援したいと思いました。

また、お店を運営するにあたっての目標は、「創業百年に向けて頑張っていく」ことだそうです。創業百年まで、残り約五年、とあと一歩のところまで来ているので頑張つてほしいです。

空いた時間は石の勉強会、展示会に参加されており、作品の精度を上げるため、日々頑張つておられます。お客様のために努力をする、その心を忘れない壺田さんが手がける作品や商品はどれも素晴らしい出来栄で、その想いが伝わってきます。

そんな壺田さん、石材店を営む以外に、とある理由で、私たちの町には欠か



見守りボランティア中の壺田さん

せない存在でもあります。今回はそのことについても少しだけ紹介させていただきたいと思います。

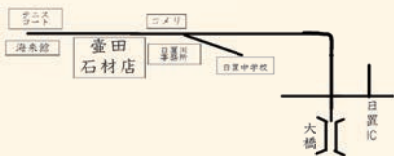
一つ目は、毎朝の登校見守りボランティアです。夏の暑い日も冬の寒い日も、雨の日でも、壺田さんは小学校前の横断歩道に立ち、私たちの登校を見守つてくださっています。

見守りボランティアは十年以上も前から行っていると聞きました。この活動を始めるようになったきっかけは、「家族が交通事故にあったことから、もう二度とそんなことがないようにするために」だそうです。私たちが小学校に通い始めた頃には、当たり前のように毎朝そこに立つてくださっており、挨拶を交わしていました。

今まで当たり前だと思っていましたが、今回このお話を聞き、当たり前では

なくすごいことだと思うと同時に、感謝したいなと思いました。長い間続けてくださっているの、時には立つことができない日もあったそうです。しかし、「近所の方々が、何かあったのかと心配してくれるからもうやめられなくなった。」と笑いながら話してくださいましたが、そこには壺田さんの優しさがあふれているのだと思います。私たちが毎日事故なく登校できているのは、壺田さんがいてくださるからです。

二つ目は、日置中学校のグラウンド整備のボランティアです。本校は、生徒の減少に伴い、部活動等でもグラウンドを使用する機会が減少しています。そのため、夏になるとグラウンドは草が大量に生えてしまい、とても困っています。生徒や先生で整備はしていますが、追いつかないほどです。そんな時、壺田さんが声をかけてくださり、綺麗に整備してくださいいます。壺田さんはグラウンド整備の際、トラックでグラウンドレーキを引っ張り、水を撒きながらの作業を行ってくださいいます。話を聞くと、「初めのころは土が舞ってしまい、近所の方々に迷惑をかけてしまったこともあった。」とのことでした。様々な工夫を凝らしながら作業をしてくださっていると知り、ありがたいなと思いました。なんと、先生方から聞いた話によると、壺田さんは休日にも整備をしてくださっているとのことでした。今年度も、何日間にもわたり作業を行ってください、体育祭も気持ちよく実施することができました。



Instagramもぜひチェックを!

[壺田石材店]
日置980-77
TEL 0739-52-2399
FAX 0739-52-2372
<https://ohakakiwame.jp/member/tsubota.html>
営業時間 8:00~17:00



農業の技術は、農家の先輩に教わったり、ネットで検索したりして学ばれたそうです。作物を育てるときの工夫は、過去の失敗を活かしたり、その年の気候に合わせて栽培方法を変更したりすること。また、味や品質の良い作物を育てるために、固形の肥料だけではなく、液体肥料も使用しており、肥料にこだわっておられます。農業は少し手入れが欠けるだけでも、作物の品質が変わってしまうため、繊細で大変です。

農業の魅力は、「頑張れば頑張るだけ収入が安定する、働けば働くほど返ってくる」ところだそうです。農業を始めたばかりの頃は収入が安定せず苦労もあったそうですが、「二年中仕事をし、やっと安定してきた。」と話されています。大変な農業で食べていけるようになったことや、生活ができるようになったことが、農業での成功だそうです。

やりがいを感じる瞬間は、自分の育てた作物を食べてもらい、「美味しかった」の言が聞けた時。大内さんの作物を何度も購入してくださるリピーターの方が増えているそうです。私たちも給食で大内さんの野菜をいただきますが、本当においしく、特に「ジャンボピーマン」が私たちの間では話題になります。普通のピーマンとは違い、とても甘くて、ピーマン嫌いの人にもぜひ一度食べてみてほしいです。

反対に大変なことは、規格外の作物



が多くできてしまった時で、そのようなことが起こった場合、引き取ってくれるところを探したり、加工品として販売したりして、作物をなるべく無駄にしないように対応しているそうです。

一番忙しい季節は、「二年中」。作物を育てるのは簡単なことではなく、時間もかかります。「作物が育たないから、と途中でやめることはできない。」と、大変さが伝わってきました。

日置の魅力について聞くと、やはり、「自然が豊かなところ」だそうです。自然が豊かなおかげで、作物に必要な水を川からひくことができます。それが日置で農業をする強みだと教えてくれました。

しかし、今の日置は交通面が不便で、買い物が大変だそうです。また、「作物の出荷先が遠い」と農家さんならではの困り感についても話してくださいました。

日置の町は、ほとんど人口が減少しています。「日置から出ていくと帰ってこない人たちがたくさんいるため、人が減っています。」

農業の大変さ、また、農業への熱い想いを語ってくださった大内さんの愛情たっぷりの野菜や米、花は、安居地区の作業場、日置の道の駅「にこにこ市」、田辺市の「よつてつて」「紀菜館」等で購入することができます。この記事を読んで大内さんの野菜を購入してくれる人が



ていくばかり。」だと話してくださいました。これから日置も発展していき、働くところが増えて、子育てのしやすい町になることを期待しているそうです。

AIについても質問してみました。「将来AIが発達すると、農業にはいい影響があると思う。また、いろいろな人の経験にもつながってほしい。」とおっしゃっていました。大内さんの話を聞いて、AIがもたらす農業への良い影響を私たちに考えてみました。AIがあると、農業をしたことのない人たちにも育て方を教えてくれ、簡単にやってみることができることが強みで、そうなることで農業がさらに広がっていくのかなと思います。



左：大内美砂さん、右：大内大作さん



@日置

野菜を作る、未来を創る
つないでいきたい、この想い

着てくれているのは
ひきよせTシャツ!

親や親戚が農業をしており、幼い頃から手伝いをしているうちに、いつしかそれが将来の夢になった大内大作（おおうちだいさく）さんと美砂（みさ）さんご夫婦。宮大工になりたいという夢もあったそうですが、農業を続けたのはやはり、農業の楽しさややりがいが大きかったからだとか。農家になったことについて、後悔は全くないそうです。農業について語るとき、いつだって笑顔があふれる大内さんにお話を伺いました。

正式に農業を始めて十三年目。初めての農業体験は芋掘り、初めて栽培した作物は米と大根。現在、栽培している作物は、米、大根、ニンニク、玉ねぎ、キャベツ、ピーマン、春菊、ケール、バナナです。中でも大根は、一般的に食べられる青首大根、漬物等の加工品によく使われる白首大根、中が赤くて丸い紅芯（こうしん）大根の三種類を育てています。また、ケールはサラダで食べられるよう品種改良したものを栽培しています。

季節が重ならないように栽培しているため、二年中仕事をされています。作物は毎日の手入れが重要なため、自分自身が病気になるないように、毎日の健康管理にも気をつけているとのこと。

育てた作物は農協に出荷したり、給食に出してもらったり、直売所を持って行ったりしています。

増え、さらにファンが増えるといいなと記事を書きながら思っています。

農業を始めたばかりの頃の夢は「フェラーリを買うこと（笑）」だそうです。フェラーリを購入できたのかは聞いていませんが、夢を持つことの素敵さを感じました。そんな大内さんに中学生に向けてのメッセージをお願いしたところ、「二人でも多くの人に、農業に興味を持ってほしいです。また、何か夢中になれることや、没頭できることを見つけるといい。」と言ってくださいました。自分の子供には、「農業を継いでほしいわけではないが、本人が望むのなら一緒にしたい。」そうです。

これからの未来は私たちにかかっていることに、改めて気づきました。大内さんの想いを聞いた私たちは、期待に応えられるように、ひきよせや海の森プロジェクトで日置を活性化させ、よりよい未来を創るために頑張っていきます。



南紀州交流公社 左:佐本真志さん 右:岩本淳さん

南紀州交流公社

南紀州交流公社は、紀伊半島の南部、和歌山県白浜町日置川地域を中心に南紀州の自然環境と農林漁業の生業を活かした「ほんまもん体験」の受入れを行っています。その中に民泊があり、
●生活体験を通して、人々との交流を大切にする。共同生活によりお互いに思いやる心、助け合う心を育む。
●農山漁村の生活を通して、自然との共生、第一次産業の重要性を見直し、理解を深める。
●野菜や食材を調達し食事を一緒にすることから、食の大切さを学び、命の教育・食育につながる。
このことを目的に民泊をしています。

- 基本的な礼儀が出来ること(挨拶、返事、意志の伝達、迷惑をかけない等)。
- お客様でなく、自分からすすんで活動する意識を持つ。
- 他人の家に泊まる以上、常識ある行動をする。



廣本正道さん

廣本鮎子さん

@日置

あたたかみ感じる 第二のふるさとに

日置中学校から歩いて約十分、昔ながらの日置の町並の中にある建物。ここで夫婦二人がされている体験民泊が今回の取材先。

体験民泊をされているのは廣本正道(ひろもとまさみち)さんと鮎子(あゆこ)さんご夫婦。お二人が体験民泊を始めたきっかけは、南紀州交流公社に農林漁家生活体験民泊の受け入れを勧められたからで

す。子育てがひと段落し、部屋がついたこと、日置の過疎化が心配していたように進み、何とかしたいと思えたからだそうです。そんな思いから始めた民泊も、約十年になるそうです。

体験民泊は様々な人が利用する一方で、団体旅行や学生など年齢に関係なく受け入れられています。外国人の方も利用されているそうで、東南アジア系の方が多く、ヨーロッパ系の方は少ないとのことでした。日本の学生が多く利用する時期は、五・六月と九月半ばから十一月終わりまでです。また、外国のお客様が多いのは、七月・八月や冬の閑散期だそうです。

今回の取材には、民泊の受け入れを担当している南紀州交流公社の所長である佐本真志(さもとまさし)さん、職員の岩本淳(いわもとあつし)さんのお二人も同席してくださいました。佐本さんは、「できるだけ年間を通して民泊の受け入れを行いたい。」とおっしゃっていました。利用するお客さんは初めての方が多く、毎年同じ学年で利用し続けている学校もあります。体験民泊を利用する目的は、教育旅行や学校の行事で利用する人が多く、「様々なことを学んでもらいたい、そのために普段からお客さんと話をする時間を大切にしている。」と話してくださいました。

南紀州交流公社が受け入れる民泊では、二軒で四人まで泊まることができます。それ以上の人数になると、名前が覚えられないのと、しっかり一人ずつ見てあ

体験では、晴れた日には家業体験をします。家業体験では、家庭菜園で玉ねぎなどの野菜を植えたり、畑の雑草をとります。「若い子がしてくれと助かる。」とお二人はおっしゃっていました。雨の日はペイントの評判がいいそうで、お客さんたちは自分の筆箱や下敷きにペイントをしているそうです。

お客さんが泊まる場所は八畳間の間取りです。六畳間あれば四人が寝ることが出来ます。部屋の清掃時は、特に台所・お風呂場を綺麗にするそうで、お客さんが来るとなると特に「綺麗にしないと！」となるそうです。

お二人が民泊をされていてやりがいを感じる時は、「一緒に食事しながら話をする時」。若い人と話せるのが一番楽しいそうです。大変だと思ふ時は、「お客さんが二泊三日で泊まって日家業体験の日が入っている時」。それでも楽しみが大きいから続けられると話してくれました。「若い人と作業していると若さがもらえる、楽しいから体力があればいくらでもしたい。」とお二人の言葉を聞き、民泊の魅力あふれる体験に興味がありました。

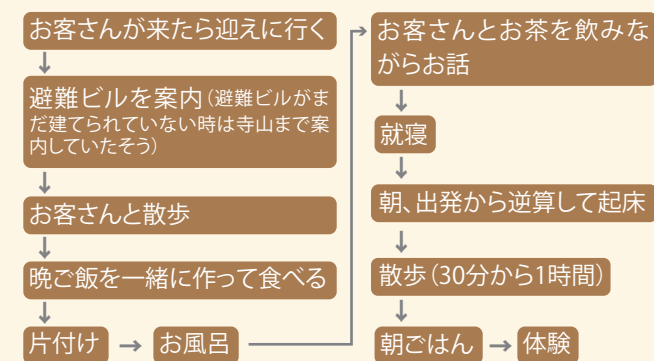
体験民泊をするうえでお二人は、事故なく帰ってもらうこと、気持ちよく過ごしてもらうことを大切にしているそうで、学生さんが泊まる時は他人の子供を預かるので特に事故が起こらないように、また、喧嘩をしないようにと気を付けているそうです。

他とは違う、廣本さんのお宅ならではの民泊について尋ねると、「日置の田舎の



げられないということから、四人にしているそうです。お客さんの人数は、コロナ前から今までで変わっておらず、むしろ前より問い合わせは増えたそうです。

廣本さんのお宅での体験民泊1日のスケジュール例



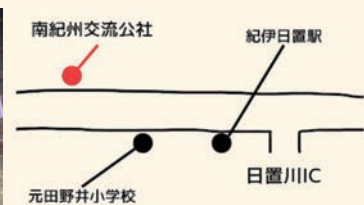
遺言だと思って聞いてくれ。」と中学生・高校生の年代に合わせて話をするところだそうです。時には耳の痛いことを言うことも…だそうです。これもまた民泊の良さだと感じました。

これから取り入れていきたいことを聞いてみると、「前までは自分の知っている範囲で日置のことを話していたから、今は地元の勉強をたくさんして今までより様々な話をしたい。」と答えてくださり、勉強熱心なところを私たちも見習わないといけないと思いました。

正道さんが感じる日置の魅力を聞いてみました。「それぞれの時代で魅力がある。自然豊かで人間が生きやすい環境で必要な最低限の条件が整っている。農作業ができる。充実した環境がある。静かで空気がよく、水がきれい。釣りができる。」と多くの魅力を教えてくださいました。魅力はたくさんあるけれど、反対に不便なこともあるそうです。「健康でいられる時はいいけれど、病気になったとき、家の近くに買い物ができるお店がなく移動が大変なので、電車やバスを使えるように移動手段を解決してほしい。」とのことでした。今の私たちが解決



[南紀州交流公社]
白浜町安居306-1
TEL 0739-53-0055
FAX 0739-34-5010
<https://www.minamikishu.com>



皆さん、自然豊かな日置にある、昔ながらの生活を体験でき、たくさんの方が学べ、素敵な人と出会い、繋がりが生まれる民泊を体験してみませんか？

私たちは今回の取材を通して、とてもお客さん想いで、たくさんの方が体験できる素晴らしい民泊だと思いました。

私たちが中学生に期待していることを尋ねると、「視野の広い、自分で物事を考えられる人間になってほしい。基礎的な判断力を養ってほしい。これが私の遺言です。」と正道さんならではの口調で、語ってくださいました。

私たちは今回の取材を通して、とてもお客さん想いで、たくさんの方が体験できる素晴らしい民泊だと思いました。



鮎子さんのペイントが
家の中にたくさんあります



テニスで広がる地域との繋がり 日置が誇るテニスの聖地



左：古川泰造さん 右：山川勲さん

ニスに熱中できることへの感謝の気持ち
を、常に管理人さんたちに持ち続けたい
です。

～日置を眺めて～

現在の日置を見ていて、少子高齢化
をどんな身近に感じるようになったと
話されていました。例えば、「小学生や
中学生が減っていて、五十年ほど前は
学年で八十人近くいたけれど、今は比
べられないほど人がいない。」と神妙
な面持ちで話してくれました。

お二人はこの日置の町を見て、「人が
減って寂しい」と感じるそうです。他
にも、「後継ぎなども減っていることが
問題だと考えていて、特に農業や漁業
の第一産業が深刻。」だと話してくれ
ました。このように、地方の大きな課
題である過疎を肌で実感しているそう
です。

「今の子供が成長すると、日置の外で
仕事をするために引越しをする人が多
く、帰ってくる人の方が少ないから減
り続けるんだと思う。」とおっしゃっ
ていました。しかし、自分たちでどうに
かするのは難しいから余計に寂しく感
じるそうです。

過疎の解決のためには、「もっと日置
の魅力を広げることができれば自分
たちでも解決できるかもしれない。」
と教えてくれました。お二人が思う日
置の魅力は川や海、山などの自然が豊
かなところだそうです。人は少ないけ
れど、みんな人柄がよく住みよい町
だと話し

紀勢道の日置川ICを降りて、国道
四二号を樺方面に向かうと、ひととき
大きい施設が現れます。白浜町テニス
コートです。ここは老若男女問わずた
くさんの方が利用されています。

このテニスコートは、一九七二年の黒
潮国体にあわせて開設されました。当
時の日置川町が「鮎とテニスの町」と
言われるほどテニスが盛んであったこ
とや、その時の日置中学校女子テニス
部と三舞中学校男子テニス部が県内
でも特に強かったため、日置にテニス
コートが作られたというお話もあるそ
うです。

このテニスコートは、二〇二五年の紀
国わかやま国体をきっかけに二度コ
ートが貼り替えられ、面数が拡張され
ました。もともと十二面だったところ
に、若者広場、野球場だった場所を利
用して県内最大級の二十面に拡張され
ました。現在のテニスコートはコート
だけで約十四万六千平米もあり、駐
車場だけ



でも二千七百平米になります。これは
甲子園球場のグラウンドよりも広くて
、駐車場等のスペースを利用し、試合
前の準備運動をする人も多く、効果
的に使われています。

白浜町テニスコートは、砂にもこ
だわっていて、ガーネットサンドとい
う種類の砂を使用しています。この砂
は膝や足腰への負担が少なく、クッショ
ン性があります。そのおかげで高齢
の利用者の方からも評判が高いそう
です。また、他の砂に比べて少し重
く、風で飛ばされにくい特性も持ち
合わせています。

どのくらいの方が利用しているのか
を管理人さんに尋ねると、年間約千
三百人ほどの人が訪れていて、多い
年には約二万人がこのコートでテニ
スを楽しんでいると教えてくれました
。五月にはゴールデンウィークを利
用して多くの方がこのテニスコートを
訪れて、八月には夏休みもあり高校
生や大学生が合宿や練習などに利用
しています。

また、コロナ前に行われたイベン
トでは、アイドルの方がこのコート
に二度訪

てくれました。

～今の中学生へ～

これからの日置や中学生に期待して
いることは何かと聞くと、「今の日置
中学校は人数が少ない分、高校へ行
ったら友達を増やし、その友達を大
切にしたい。」と話してくれました。
また、「大人になり日置から出て行
っても、自分の故郷は日置であることを
忘れずに、祭りや行事があるとき
には帰ってきてほしい。」ともおっ
しゃっていました。

私たちはこの話を聞き、今の友達も
大切だけど、これからの出会いも大
切にしたいと思いました。また、高
校へ行き自分の世界が広がる中
でも、故郷や地域の方々と大切に
していきたいという気持ちが強くな
りました。

私たち日置中学校テニス部は、普
段からこのテニスコートを利用させ
ていただいており、放課後もこのコ
ートで練習ができています。いつ行
っても綺麗に整

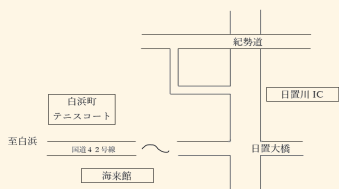


れ、テニスの腕前を披露してくれて
いたと管理人さんに教えてもらいま
した。他にも、テニスコートの駐車
場を利用して様々なイベントが行わ
れており、地域の方々と関わる機
会がたくさんあります。

このように、日置の町に住んでい
る人たちはもちろん、他都市、さら
には和歌山県外から様々な人たちが
この白浜町テニスコートを訪れて、
テニスを楽しんでいます。今まで特
に気にしたことなかったこのテニス
コートが、実は様々な人が集う素
敵な場所だということを、取材を
することで再発見することができ
ました。

備されており、ここで毎日練習が
できるなんて贅沢だなと思っています
。いつも気持ちよく利用させていただ
くことができ、管理人さんには感謝
の気持ちでいっぱいです。

このように、管理人さんたちが細
かいところまで一生懸命整備してく
れている白浜町テニスコート、皆
さんも是非お越しください。



[白浜町テニスコート]
白浜町日置2039-119
TEL 0739-52-2247
FAX 0739-52-2186

愛され続けて七十五年 三代続く老舗の味

道の駅海来館から北向きに進み、日置の町を抜けて山に向かう国道沿いにお店があります。

その名は「たつのや」。

主に民宿、食事処として営業しています。

今年で創業七十五年。名前の由来は社長の祖父のお名前から取ってきたそうです。



左：門前洋八さん 右：平阪真樹さん

調理担当をしている門前洋八（もんぜんひろや）さんと、店長でありホール担当をしている平阪真樹（ひらさかまさき）さんにお話をうかがってみましたところ、お二人はすごく楽しそうに仕事をされているのが伝わってきました。

門前さんは宝塚で働いていた時に、現三代目たつのや社長である勘代さんに声をかけてもらい、今の仕事に就かれたそうです。



お昼時になると駐車場はいつもお客様の車でいっぱいです。特にお昼の十二時～二時台、夏休みやGWなどはお客様が多いです。

大きな座敷もあるので大勢で楽しめるようになっていて、家族親戚がお祝いごとや法事、帰省などで集まる時や、会社、地域の人たちの宴会、小中学校の同窓会など、地元の人の暮らしの中の様々な場面で利用されています。また壁には釣られた魚の黒魚拓が飾られており、釣り好きにはたまらない場所となっています。

私たち日置中学生もよくたつのやを利用させていただいています。従業員さんたちはとてもフレンドリーで、気兼ねなく通うことができます。

メニューは八十種類と幅広く、毎日来ても飽きない品揃えとなっています。たつのやの自慢は新鮮な海鮮を使った料理。広々とした店内で寛ぎながら旬の海鮮料理を味わうことができます。夏

平阪さんも同じく、社長さんに声をかけてもらい、たつのやで働かれています。

たつのやで働いていてやりがいを感じる時を尋ねると、門前さんは、「忙しい時」「平阪さんは「お客様に嬉しいお言葉をかけていただいた時」、とおっしゃっていました。

お二人にとつてのたつのやとは何かという問いには、門前さんは「頑張れる場所」「平阪さんは「やりがいのある場所」と語ってくださいました。

これからの日置に期待していることを聞いてみると、お二人とも「日置には山や川、海などの自然が豊富だからもっと魅力を発信していきたい。」「日置の人口を増やしていきたい。」と答えてくださいました。また私たち中学生に期待していることは「いつか地元に戻ってきてほしい。」「今しかできないことを楽しんではほしい。」とのことでした。

たつのやの民宿は、主に観光客や近くにあるテニスコートでの大会で合宿に参加する学生さん、釣り人などに利用されています。

お部屋は全十三室あり、収容人数は五十～六十人。お部屋の番号は「イシダイ」や「イサキ」など地元の魚の名前になっているのも特徴となっています。

お風呂は天然温泉で、たつのやの近くにある海底源泉を使用した「日置川渚の湯」を運んできているそうです。泉質は強アルカリ泉で肌がツルツルになるのが

はうなぎを提供するなど四季折々でメニューが変化するのも魅力的です。また料理は全体的にボリュームがあり、よく食べるお客様でも満足できるようになっています。

海鮮料理はやはり人気。その中でもお刺身定食は一番人気だそうです。が、単品の握りや巻き寿司も人気。また日置中学校の先生が虜になった、とろろそば棒寿司もおすすめです。

また、海鮮料理も人気ですが番注文されているのは幅広い世代から愛されている唐揚げ。下味を付けていないのがたつのやの唐揚げの特徴。パリッとした衣と、柔らかい鶏ももは、塩味がよく効いている一品となっています。

ちなみに、取材を担当した私のおすめはマグロの二色丼です。

料理で特にこだわっているのはダシだそうです。日置の南隣にある町、周参見



特徴的。美肌の湯とも言われています。

また、コロナ禍でお店にお客様が来ない時、宿泊のキャンセルが相次ぐ中、新たに始めたのがお弁当販売でした。今では仕出し弁当を出張したりもしているそうです。

お二人は、「今後宿泊やご飯を食べに何度も通ってきてくれる方が増えてほしい。」「みんなに愛される場所になりたい。」「トリピーターが増えることを望まれています。

たつのやには姉妹店もあります。田辺市新庄町と和歌山市駅直結のキノノ和歌山に「海鮮れすとらん勘八屋（かんぱちや）」という海鮮料理店、紀伊田辺駅前に「白浜温泉うなぎ まるかん」といううなぎ料理店を経営されています。そして、南紀の台、産直市場よつての

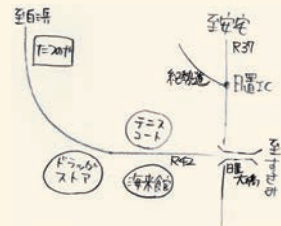


（すさみ）で獲れた目近鰯（宗田鰯）を使っていて、主に赤だし味噌汁やおうどんに使われています。また、仕入れについては野菜なども含め、二百種類を超える食材が扱われているそうです。

お店の裏庭にはバーベキュー場が設けられており、合宿に来ている学生さんが、たつのやに宿泊された際などによく利用されているそうです。



フードコートにも「たつのや」が来店されています。日置のお店が県内各地に広がっているのとても誇らしいし、嬉しいことだなと思いました。日置まではちよつと遠いな…という方は、ぜひお近くの店舗に足を運んでみてください。そして機会があればぜひ、日置のたつのや本店にお越しください。



【たつのや】
白浜町日置1203
TEL 0739-52-2244
<https://www.minshuku-tatsunoya.com/>
営業時間 11:00～14:00 17:00～20:00
定休日 不定休

ひきよせのあゆみ

START!

見た目はプリン
中身は石鯢!!
その名も
「スーパー激落ちプリン石鯢」
日置文化発表会で
販売決定!!
日置中生徒が考案し製造しました
100個限定です。
オリジナル石鯢はいかがですか?
台所用
洗濯用の
石鯢です!
11月20日 日置中 体育館にて販売

2016年 石鯢



2017年 門松

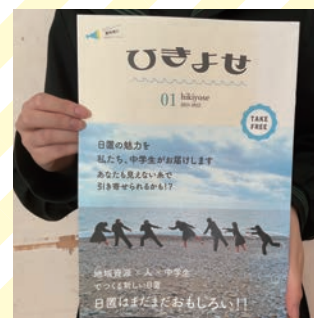


2018年 しめ縄

先輩方は、日置の町を活性化したいという
思いから活動を開始したと聞いています。
2016年には石鯢、2017年には門松、2018
年にはしめ縄を作り文化発表会で販売しま
した。

しかし、これでは文化発表会当日しか町は
盛り上がっていない、また、毎年何かを作る
予算もない、、、という問題があり、活動を大
きく変更しよう!と翌年より新たな取組がス
タートします!

2021年 フリーマガジン作成



取材
制作

企業訪問で知った町の良さをもっと
たくさんの人に知ってもらいたい!

➤ フリーマガジンを作ろう

私たちの紹介したい日置のヒト、モノ、コトを
ピックアップし、取材の依頼、取材、
写真の撮影、記事の作成をしました。

2022年 フリーマガジン2号作成



第1号のフリーマガジンひきよせ作成に続いて
フリーマガジンひきよせ第2号を作成しました!
第1号の反省を活かし、地図の作成やオススメ
スポットの紹介、新たに動画を使用した取材先
の紹介等に取り組みました。

また、この年から一致団結して活動を行うために
おそろいのオリジナルTシャツもできました♡

2023年 日置フェア、海の森プロジェクト、 フリーマガジン英語版作成、昼市夜市



活動の
拡大

フリーマガジンを見てくださった方々
からのたくさんの連絡!

➤ 日置の魅力をたくさんの人に
伝える活動の幅が広がりました。

英語版「ひきよせ2号」→



2024年 フリーマガジン3号作成、 海の森プロジェクト



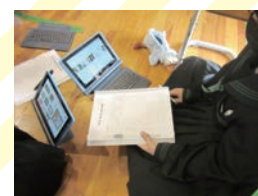
活動の
継続

昼市夜市⇨悪天候のため中止(:(
海の森プロジェクト

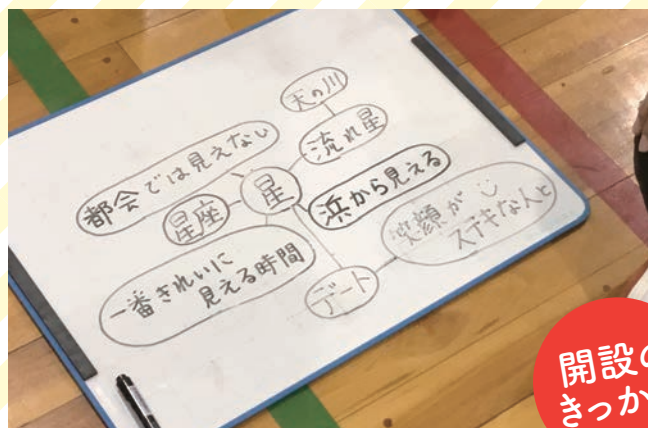
⇨研究の継続、次のステップへ!

フリーマガジン3号作成のスタート!

to be continued...



2019年 Instagram開設



開設の
きっかけ

日置をたくさんの人に知ってもらうこ
とが必要。Instagramを開設す
ればもっとたくさんの人に知ってもら
えるのではないかな

2020年 地元企業、施設を訪問して 地域について知る



企業
訪問

日置地区だけでなく、白浜町、
さらに近隣の市町村の
・経済、産業
・観光
・歴史、文化について学びました。

IT企業、スーパーや商工会、サイクリング、
ジオパーク、民泊、キャンプ場、空港、熊野古道、
安居暗渠、役場地域防災課を訪れ、
話を聞かせていただきました!

➤ どんな写真を投稿すれば
日置の魅力が伝わるのか...

➤ 自分たちがまず日置を知らなければ!

生徒の感想「ひきよせプロジェクト」を通して

一人ひとり、全員が主役!の私たちの活動。もちろんうまくいかないことも、難しいことも多くあります。その中で試行錯誤し、奮闘しながら日々成長している私たちの「今」を少し覗いてみてください。

私はひきよせをしていてよかったなと思います。人前で話すことが、得意ではなかったけど、今は少し得意になったなと思います。得意になったおかげで人前で話す時あまり緊張せずに話すことができるようになりました。様々な作業をする時には、初めはうまくいかないこともたくさんありましたが、周りの人たちのアドバイスののおかげでできることが増え、自信もついてきました。(2年生)

私は、3年間総合の学習に取り組んできました。1年生の時には、初めてだったこともあり、「総合ってこんなにも大変なのか。」と思ったのを覚えています。私は人前に出ることは得意ではありません。今はどうかと言われると分かりませんが、みんなと一緒に協力したり目標に向かって頑張ったりしている間にだんだんと勇気づけられました。そして仲間との絆を深めることができ、本当に充実した時間を過ごすことができたなと思います。私はこの活動を行うことができてとても嬉しいです。将来、私の活動に少しでも経験を活かしたいです。(3年生)



3年間総合を通して、様々な体験をしました。小学校までとは全然違って今までにない感じでした。これまで地域の人たちに関わるものと言えばクリーングリーンや祭り程度だったので、1年生の頃はこの活動は少し緊張もしました。2年生になるとアマモを育てることになり、最初はよく分かりませんでした。当初は乗り気ではなかったけど、時間が経つにつれ、とてもやってよかったなと思うようになりました。班で意見を交換したり、実験を何回も繰り返す中で、コミュニケーション能力がとても高くなったなと思います。今までの経験をこれからの自分の成長へと繋げたいです。(3年生)



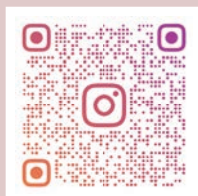
私がこの1年間の総合で1番印象に残っていることはアマモの活動です。私は総合の時間だけでなく、アマモ先行調査隊に入り、たくさんさんの時間、アマモに関わってきました。この中学校の生徒だからこそ経験できたことなので、1年間で1番印象に残っています。残りの2年間も研究を続け、日置の海にアマモを投苗し、アマモがたくさんある海を作り、地球の環境についても考えていきたいです。(1年生)

日置中学校での総合の授業は、ひきよせ3号の取材やアマモについてなど、初めてのことが多く不安も多かったです。でも、思ったよりも1年が早く過ぎていたし、総合の時間はいつも最高に楽しく過ごせました。特に取材は、緊張しましたが楽しかったです。残りの2年間も総合を頑張っ、卒業の頃には先輩たちのように様々なことができるようになりたいです。(1年生)

私はこの2年間、総合での活動を通して、1年生の時より「大変だな」と感じるが増えました。1年生のときは言われたことをするだけだったけど、自分で考えながら動いたり、下級生に教えながら動いたりするようになったからだと思います。指示を待つだけでなく、自分で考え行動する力や、よりよい方法を相談して見つけるという力がつきました。残りの1年は何ができるのかとても楽しみです。(2年生)

SCAN HERE

Instagram QR



日置中学校のInstagramです！フォローよろしくお願いします！

活動紹介動画 QR



ひきよせプロジェクトの活動の様子を動画にしました！ぜひ、ご覧ください！

アンケート QR



フリーマガジンを手にとってくださった皆様からの感想をお待ちしています！

今後の参考にさせていただきます。ご協力お願いいたします。

海の森プロジェクト

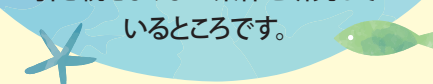
アマモって何？

海草の一種であり日本各地に分布しています。アマモは小魚や甲殻類などの棲みかになるだけでなく、海を豊かにし、また光合成により二酸化炭素を吸収して酸素を作るなどの働きがあります。これらのことから「海のゆりかご」と呼ばれています。そんな生き物にとって欠かせないアマモですが、海水温の上昇の影響や高度経済成長期の水質悪化、沿岸域の開発などによって、アマモの生息地であるアマモ場が大幅に減少してしまいました。



海の森プロジェクトとは

海にアマモ場を再生し、豊かな海を取り戻そうというプロジェクトです。豊かな海を取り戻すことにより、ブルーカーボンが増え、地球温暖化の防止にも繋がります。海草は森林よりも二酸化炭素の吸収率が高く、陸上の生態系が吸収する炭素をグリーンカーボンと呼ぶのに対し、海洋の生態系の場合はブルーカーボンと呼ばれています。私たちはこのプロジェクトを日置中学校、日置電機、和歌山工業高等専門学校の3者で、2023年から始めました。現在、アマモの種子の発芽、そこからの新しい種子の採取に成功しました！引き続きよりよい条件を研究しているところです。



水槽で発芽したアマモ



水槽で育ったアマモ



実験の検討



実験準備中

日置(ひおき)電機株式会社

長野県上田市にある電気計測器を作っている会社です。日置(ひき)に旅行に来てフリーマガジンを見つけてくださった方が日置電機岡澤社長と繋がりがあり、連絡してくださったことをきっかけに交流がスタートしました。「日置」と書いて「ひき」と読む日置中学校と「ひおき」と読む日置電機さん。「日置」が縁を結んでくれました。このプロジェクトを進めるにあたり機材の提供や実験のアドバイス等、私たちにたくさんの支援をしてくださっています。普段はオンラインでの授業ですが、年に数回、日置中学校へも来てくださっています。



あも丸

海の森プロジェクトを進めるにあたって、日置中学校生徒がアマモゆるキャラ総選挙を行いました。日置中学校、日置電機の海の森プロジェクトメンバー、楠部教授の投票により、黄緑色と茶色のアマモカラーを基調とした大きすぎ白衣がチャームポイントの「あも丸」というキャラクターに決定しました。日置電機さん主催のHIOKI祭りではお披露目もあったとか!?今後様々な場面で活躍してくれる予定です。



アマモ先行調査隊

全校生徒の代表として、アマモ研究を進めている組織。募集したところ4名が手を挙げ、積極的に活動を進めてくれています。市江(いちえ)漁港にアマモのようなものがあるという情報から、夏休みには市江の歴史や海環境について文献で調べたり、実際に海に潜り調査を進めてくれました。調査の結果、アマモの仲間であるコアマモがたくさん生えており、私たちが実験しているアマモも育つのに適した海であるのではないかと、いうデータが集まり、今後は水槽で育てたアマモを日置の海へ投苗する準備を進めていきます。

